

会计学

補講③ 資産の評価基準



資産の評価基準について取得原価主義、時価主義、割引現在価値主義について、意義と特徴を述べよ。

【解答例】

取得原価主義とは、資産を取得原価に基づいて評価する考え方である。取得原価によって資産が評価される場合、資産が売却されるまで利益が計上されないため、利益に処分可能性がもたらされること、取得原価が第三者との取引価額に基づくため、計算の確実性や客観性、検証可能性を有する利点がある。問題点としては、貸借対照表に計上される金額が、時価と乖離する可能性があることや、取得原価に基づいて計算された費用と現在の価格水準を反映した収益が対応付けられるため、利益にその資産の保有による損益が含まれることなどが挙げられる。

時価主義とは、資産を時価に基づいて評価する考え方である。時価によって資産が評価される場合、資産が現在の価値に近い金額で計上されるので、利害関係者の意思決定に有用な情報を提供できることや、現在の価格水準を反映した収益と費用が対応付けられるため、利益にその資産の保有による損益が含まれない。問題点としては、市場が存在しないなどの理由から、時価を把握することが困難な場合があることや、客観的な時価評価が出来ないことなどが挙げられる。

割引現在価値主義とは、資産を割引現在価値により評価する考え方である。貨幣の時間価値やリスクを反映することができるため、投資家にとって有用な情報を提供することができることや、資産の将来キャッシュフローに基づいて評価するものであり、合理的であるという利点がある。問題点としては、資産から得られる将来キャッシュフローの予想など、主観的になり易く、客観性や検証可能性を欠くことが挙げられる。